

社会保障費カットもラヤめよ

麻生首相が一体何をやりたいのか、分からないという声が高まっています。

小泉内閣のときに始まった、社会保障費の伸びの年間2200億円カット。医師不足などを招いた元凶として、見直しが強く求められています。ところが、麻生内閣の来年09年度予算編成方針は、2200億円抑制の方針は維持しつつ「状況に応じて果敢な対応を機動的かつ弾力的に行なう」。これでは2200億円抑制を続けるのかやめるのか、はつきりしません。

決断できぬ麻生首相は退陣を

ほかにあります。福田前首相は、道路だけに使ってきた道路特定財源を来年度から何にでも使える一般財源とすることを決め、「生活者財源にする」と約束しました。しかし、麻生首相が「地方に回す」と言ったそのうちの1兆円は、いつのまにか使い道が公共事業に限られ、8割は道路に使うことになり、一般財源化は骨抜きになってしまいました。「選挙の顔」になることだけを期待され、どたばた騒ぎの中で選ばれた麻生首相の限界は、もうごまかしようがなくなってきました。

景気がどんどん悪くなる中、クビになるのと同時に寮から追い出され、住むところのないままこの冬を越さなければならぬ人たちが今、たくさん生まれています。雇用対策と社会保障を柱とした予算を作らなければならぬことは明らかです。2200億円の扱いも決められないような首相は辞めるべきです。



▲「社会保障費抑制やめると発言を」と麻生首相に迫る社民党の福島党首（12月10日、参院予算委員会）。

社民党は自公政権を
終わらせ、「いのちを
大切にする政治」を
実現しようと訴えます。

「いのちを大切に」する政治へ

社民党